



前進座京都初春特別公演

京都府・京都市・京都新聞後援



秀吉はなぜ、利休に切腹を命じたのか……？

海音寺潮五郎 原作「天正女合戦」より
朱海青 脚本 / 鈴木龍男 演出
【ゆきまそう】
雪間草
利休の娘お吟ぎん

新春観劇のつどい

2025年 1月12日(日) 午後 15:30 開演(15:00開場) 京都駅ビル内 **京都劇場**

〈後援会料金〉 1等席 7,200円 (定価10,000円) 2等席 4,000円 (定価5,000円)

〈お申込み〉 京都府日本共産党後援会 TEL:075-211-5371 FAX:075-212-7453 MAIL:jcp.koen@gmail.com

〒604-0092 京都市中京区丸太町新町角大炊町186

雪間草

— 利休の娘お吟 —

秀吉、利休、三成、ねね、茶々、
そして利休の娘お吟…。

守るべきもののため命をかけた
レジンドたちの願いは今も…？

「前進座×林与一」
いざ本格時代劇の世界へ！

【ものがたり】

天下統一を目前にした豊臣秀吉は、千利休を茶頭（茶の湯を司る役）、側近として重用、厚い信頼を寄せていた。利休の娘・お吟は茶の湯の才高く、大坂城内で北政所（秀吉の正室ねね）や大政所（秀吉の母なか）のために工夫を凝らしたもてなしをして、皆を魅了する。喜んだねねは、お吟を茶の湯の指南役にとりたてる。しかし、秀吉もまた密かにお吟の美貌に目をつけていた。

一方、利休の弟子・宗三はお吟に想いを寄せていることを告白する。宗三を好ましく思いつつも、最初の結婚に破れ、茶の湯ひとすじに生きたいと願うお吟の心は揺れ動く。

秀吉の寵愛する側室茶々（淀殿）が懐妊。秀吉は大陸までも支配して、我が子をその王にさせんと、唐御陣（朝鮮出兵・大陸侵入）へのめり込む。秀吉の弟・秀長やねねらが必死に止めるのにも耳を貸さず、秀吉は利休とも対立を深めていく。命をかけた利休の説得に秀吉は…。

タイトル「雪間草」の由来

花をのみ待つらむ人に山里の
雪間の草の春をみせばや（藤原家隆、十二世紀）

（春といえば、花々が咲く事だけを待つ人に、山里に積もった雪の間に芽吹く若草にこそ、春がすでにそこにあることを見せたいものだ）
利休が、「侘び茶」の理想の精神をあらわす歌、として示したとされています。



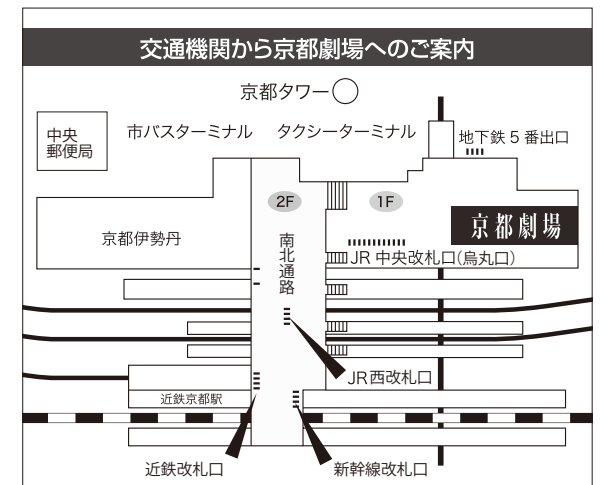
美術：佐々波雅子
照明：松本由美
音楽：日高哲英
効果：横山あさひ
舞台監督：中橋耕史
制作：楠脇厚子
加藤史子

デザイン：阿部寿 宣伝写真：加藤孝 メイク：青木満寿子

 〈石田三成〉 新村宗二郎	 〈京極電子〉 上沢美咲	 〈おきく〉 横澤寛美	 〈豊臣秀吉〉 嵐芳三郎	 〈山下宗三〉 河原崎國太郎	 〈お吟〉 浜名実貴
 〈北政所ねね〉 西川かずこ	 〈大政所なか〉 前園恵子	 〈豊臣秀長〉 藤田勇貴（助演）	 〈茶々〉 松宮美菜	 〈おちよぼ〉 中野里咲	

林与一（特別出演）1942年大阪府出身。俳優・舞踊家。曾祖父は歌舞伎役者の初代中村鴈治郎。1958年大阪歌舞伎座で初舞台を踏む。「人形佐七捕物帳」「必殺仕掛人」など、時代劇スターとして様々な作品で活躍。舞台では、自身の座長公演のほか、山本富士子・山田五十鈴・森光子ら数多くの女性座長の相手役を勤め、特に美空ひばりとは黄金コンビとして人気を集めた。現在は、舞台出演のかたわら、講演会やトークショーなど全国で開催。2024年3月、第45回「松尾芸能賞・功労賞」受賞。

〈千利休〉
林与一



京都駅中央改札口（烏丸口）から徒歩1分
新幹線JR・近鉄京都市線・京都市営地下鉄各線京都駅下車徒歩約4分

京都劇場

2025年 1月5日(日)～12日(日)

午前の部 11:00 開演 / 午後の部 15:30 開演

前進座は新しい希望と理想にもえ、歌舞伎の門閥制度から独立して一九三二年五月二十二日に創立されました。日本の革新的歌舞伎劇団であり、働く人々に支えられ、働く人々とともに歩んできた劇団です。私たち京都府日本共産党後援会も長年にわたり「初春特別公演」を取り組んできました。

今回は海音寺潮五郎原作の「天正女合戦」から『雪間草—利休の娘お吟—』をお届けします。

秀吉、利休、三成、ねね、茶々、そして利休の娘お吟の織り成す物語です。利休役に林与一さんが特別出演され、「前進座と林与一」で挑む本格的時代劇です。

今、私たちの暮らしや社会制度は、自民党政治の金権、社会保障切り捨て、戦争する国づくりと、あらゆる場面で国民的怒りは頂点にあります。私たちの暮らしと経済を破壊する政治を正し、明日へのエネルギーになる「初春特別公演」を御案内します。

京都府日本共産党後援会
事務局長・原田完
世話人一同